二〇二一年度

和歌山信愛高等学校

入学試験

国　語

（六〇分　一〇〇点）

受験上の注意

一　この問題冊子は、1ページから25ページまであります。
　始まりのチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。

二　受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に記入しなさい。

三　解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。

四　終わりのチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙を
　開いたまま裏返して置きなさい。

〈解答は、句読点や記号も一文字分と数えて記入すること〉

受験番号

【一】　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これまでに人間は、平和のための備えをし、平和のためと称する戦争を始め、いつしかそれが人間から平和を奪うただの戦争になっていた、という経験をしばしばしてきました。備えをすることが全く不要だとは言えないでしょうが、平和というものが相手のある問題、他者との関係である以上、備えさえあれば平和でいられるという単純なものではないことも、次第に明らかになってきたのです。

①加えて、平和についての思索が進むにつれ、こういう別の問題も意識されるようになります。すなわち、戦争さえなければそれで平和と言えるか――たとえば、多くの人々が極度の貧困にさいなまれ、飢えに苦しんでいるような社会は平和だろうか。人種や性による差別が根強く残り、女児の就学率が男児のそれよりもいちじるしく低いような社会は平和だろうか。また、字が読めないばかりに十分な社会参加ができず、自分たちが不利益をこうむっていることさえ気づかない人がたくさんいる社会は平和か。そういう問題です。

一九六〇年代も終わるころ、それらもまた暴力と呼ぶべきだ、と主張する学者が現れました。ノルウェーのヨハン・ガルトゥンクという人です。今述べたさまざまな問題は、誰かが誰かを殴ったり殺したりするという意味での暴力ではないが、みずから望んだわけではない不利益をこうむる人は確実にいるのだから、それもまた別のかたちの暴力と呼ぶべきだという考え方で、その種の「暴力」に②《構造的暴力》という名前をつけました。［A］、人を殴ったり殺したりするような種類の暴力を《直接的暴力》と呼びます。

「構造的」という言葉づかいはあまりなじみのないものかもしれませんが、おおよそ次のような意味です。［B］、一つの社会の中で、一方には巨額の富を占め、飽食している人がいる。もう一方にはいくら働いても十分な収入が得られず、あるいは職さえも得られず、十分な食糧さえ得られない人がいる。それが当人たちの能力ややる気の問題ではなく、富の配分の仕組みが不適切

であることの結果であるとしたなら、また、特定の人種や性が原因でなかば自動的に貧困や飢餓の中に閉じ込められているとしたなら――それは社会の仕組みが原因で生み出されている暴力と呼ぶほかないのでは i ないか。富める人々が貧しい人々を殴りつけて飢えさせているのではなく、したがって加害者は特定でき ii ないが、社会構造の被害者は iii いるという意味での「暴力」なのではないか。

この構造的暴力論は、それまでの見落としていた点を浮き a ボりにし、新たに開くものでした。それまでは「戦争のないこと」が「平和」だとされていたのに対し、戦争がなくとも「平和ならざる状態」はある、という視点を理論化するものだったからです。その背後には、平和とは何より社会正義の問題なのではないか、という問題意識があります。人間が自分の責任によらないことで差別され、b ハイジョされ、悲しみ、傷つくのは平和とは言えないのではないか、というものです。つまり、暴力の意味が変わり、平和の意味が変わったからこそ、このような問題意識が生まれてきたのです。

これによって③平和研究の課題は一挙に広がりました。戦争や武力 c フンソウや軍拡が主題だった（少なくともそう信じられていた）のに対し、貧困や開発や人権や平等といった、いわば非軍事的な社会問題にまで関心を広げていったのです。いまでも平和研究といいますと戦争や軍拡の研究ですねと言う方が少なくありませんが、iv げっしてそうではありません。それ以外の問題に対する関心も高く、その中にはジェンダーとか d カンキョウとかといった、今日的な問題も含まれます。それは単に「研究 e タイショウを広げた」ということではないのです。

戦争などの直接的暴力のない状態を消極的平和といいます。「消極的」といっても、「この程度のささやかな」というような悪い意味ではありません。いままで存在していたもの（この場合戦争）が存在しなくなった、あるいは消滅したという意味で、「消極的」なのです。これに対し、構造的暴力のなくなった状態を積極的平和と呼びます。いままで存在していなかったもの、たとえば社会平等が存在するようになった、という意味での「積極的」です。

さて、平和の意味がこのように拡張されますと、新たな問題が浮かびあがってきます。非軍事的な問題であるなら、④それは武

力では実現できない「平和」なのではないか、という問題です。問題というより認識と言ったほうがよいかもしれません。

いずれにしても、現実はそのとおりです。貧困を解決するためには武力を強化してもほとんど役に立ちません。差別される人々の人権を保障するうえでも、武力が不可欠だとは言えそうにありません。五歳未満のv小さな子供がなすすべもなく死んでいくのを防ぐことも、識字率を高めることも、いずれも同じです。

そう見ていきますと、もう一つ定義し直さなければならないことが出てきます。そもそも安全保障とは何か、という問題です。この言葉を聞くと私たちは通常、外敵の攻撃から身を守るということを連想しますが、人間の安全を脅(おびや)かす要因というのは、実はもっと身近な所にあるのではないか、それを取り除くことが安全保障ということの切実な意味なのではないか、と考えることもできるでしょう。たとえば職を失わないこと、きちんと教育を受けられること、最低限の衛生状態は確保されること、などなどです。

そして一九九〇年代に入り、⑤この考え方にそった安全保障観というものが、実際に国連の機関から生まれてきました。それが「人間の安全保障」という考え方です。

人間の安全保障という考え方は国連の様々な機関で用いられていますが、体系的に打ち出されたのは、国連開発計画が編纂(さん)している『人間開発報告書』一九九四年版においてです。それは「こんにち、人間が『安全でない』と感じる要因は、世界の破滅に対する恐怖感よりも、日々の生活に関わる不安のほうが大きい」という考え方に発したものでした。日々の生活に関わる不安とは、職や収入が安定しているか、暮らしは安全か、犯罪は多くないか、といった事柄です。

こうして国連開発計画は、新しい安全保障概念を打ち出すことになりました。それは子どもが五歳に満たずに死なないことであり、民族間の緊張が暴力に発展しないことであり、武器だけでなく人間の尊厳に関心を払うことである、とされたのです。言いかえるとそれは、領土偏重の安全保障から人間を重視した安全保障への転換であり、軍備による安全保障から「人間開発重視」の安全保障への転換でした。「人間開発」という考え方も国連開発計画が生み出したもので、国家のＧＮＰを増やすことよりも、人間

に健康や教育や食糧を行き渡らせることを主眼とする「開発」です。

旧来の軍事的安全保障と、この新しい人間の安全保障とは、あれかこれかの関係にあるのではなく、それぞれがそれぞれの重要性を持っています。たとえば、自国が襲われるかどうかにかかわらず、安易に戦争に訴える国が減らないのであれば、それは世界の安全保障にとっての問題として、幼児死亡率を下げるといった問題とは別に取り組まなければなりません。国際テロリズム対策なども、これは貧困の問題などとも無関係ではありませんが、それはそれとして取り組まなければならないでしょう。⑥その意味で、人間の安全保障のための努力を強化すれば、自動的に旧来の安全保障の問題がすべて解決すると考えることはできないのです。

世界で約八億人の人々が飢え、十二億人の人々が衛生的な水を確保できず、毎年一二〇〇万人の子供が五歳未満で死亡し、八億五〇〇〇万人の成人が字も読めない状態にあることを考えるとき、国連開発計画のこの訴えは、途方もない非現実的なものであるとは、とても言えそうにありません。平和とは人間が人間らしく生きることであり、誰もが生まれながらに持っている権利を侵されないことなのではないか――人間の安全保障という考え方は、人間の平和観の根本的な転換を迫るものであるように思います。

（最上（もがみ）　敏樹（としき）『いま平和とは』　より）

問一　〰〰線部ａ～ｅのカタカナを漢字に直しなさい。（楷書ではっきりと書くこと）

問二　――線部①「加えて、平和についての思索が進むにつれ、こういう別の問題も意識されるようになります」とありますが、何に加えて述べられていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　人間が平和のための備えをし、平和のためと称する戦争を始めたこと。
イ　平和のための備えをすることが全く不要だとは言えないこと。
ウ　社会参加できない人たちが不利益をこうむっていること。
エ　戦争はないが人種や性による差別が根強く残っていること。
オ　平和は備えさえあれば実現できるという単純なものではないこと。

問三　本文中の［A］・［B］に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　たとえば　　イ　一方で　　ウ　だから

問四　――線部②「《構造的暴力》」について、次の問いに答えなさい。

(1)　「構造的暴力」とはどのような暴力ですか。それを端的に表した部分を本文中から二十字で抜き出しなさい。

(2)　「構造的暴力」の具体例として、正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　知人からお金を借りておいて、いつまでも返さない。

イ　同じ仕事をしていても、女性の給料が男性よりも低い。

ウ　感情にまかせて、人の顔を平手で殴ってけがをさせる。

エ　一生懸命話しかけているのに、相手に無視され続ける。

オ　いやだと言っているのに、しつこく食事に誘われる。

問五　═══線部ⅰ～ⅴの単語の品詞の組み合わせとして正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ⅰ　助動詞　ⅱ　助動詞　ⅲ　動詞　ⅳ　連体詞　ⅴ　形容詞

イ　ⅰ　助動詞　ⅱ　形容詞　ⅲ　名詞　ⅳ　副詞　ⅴ　形容詞

ウ　ⅰ　形容詞　ⅱ　形容詞　ⅲ　名詞　ⅳ　副詞　ⅴ　連体詞

エ　ⅰ　形容詞　ⅱ　助動詞　ⅲ　動詞　ⅳ　副詞　ⅴ　連体詞

オ　ⅰ　形容詞　ⅱ　助動詞　ⅲ　動詞　ⅳ　連体詞　ⅴ　形容詞

問六　═══線部③「平和研究の課題は一挙に広がりました」とありますが、なぜ広がったのですか。その説明をした次の文の［　X　］・［　Y　］に当てはまる言葉をそれぞれ本文中から二十字で抜き出して答えなさい。

「構造的暴力論」によって、［　X　］という考え方が理論化され、［　Y　］から。

問七　線部④「それ」の指示する内容を最も端的に表した言葉を本文中から五字で抜き出しなさい。

問八　線部⑤「この考え方」とは、どのような考え方ですか。本文中の言葉を使って四十字以内で説明しなさい。

問九　線部⑥「その意味」とは、どのような意味ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　新旧の安全保障の考え方はそれぞれに重要性を持っており、個別に取り組む必要があるという意味。

イ　安易に戦争に訴える国が減少していくことにより、貧困などの問題は次第に解決していくという意味。

ウ　領土偏重の安全保障は時代に合わなくなっており、人間を重視した安全保障だけが重要だという意味。

エ　人間の安全保障という考えは現実的でないため、軍事力で平和の実現に取り組むべきだという意味。

オ　人間を重視した安全保障のための努力をすれば、軍備による安全保障の問題も解決していくという意味。

【二】　次の文章は鷺沢萠（さぎさわめぐむ）の小説『帰れぬ人びと』の一節である。村井は会社勤めをしている。ある日、新しくアルバイトに来た女性を紹介されるが、その人物が「知生（ともり）」という聞き覚えのある姓だったことで、村井は動揺した。村井は知生恵子に仕事を教える役を押しつけられた。本文はそれに続く場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

知生という苗字（みょうじ）のことは、もっとあとになってから考えることにしよう。村井は全身を緊張させて座っている彼女を、これ以上見ているのはa居たたまれない気がして恵子に声をかけた。

「はい」

笑ってこそはいなかったが、恵子は白い顔にはじめて明るさを見せて村井の方を振り向いた。

「①インクを買ってきてもらえますか。出て右に行った角に文房具屋があるから……」

「はい」

知生恵子は椅子の背にかけてあったコートを手にとると、すぐに立ち上がって外に出た。さっきから気づいていたことだが、恵子は背が高かった。社長と並んだときは明らかに頭ひとつ出ていたから、一六五センチはあるだろう。

村井は、紺色のセーターのすらりとした後ろ姿が鉄扉のむこうに消えるのを見送った。知生恵子は、足音というものをほとんど立てない歩き方をした。それはまるで、自分の周囲のすべてのものに影響を与えるのを怖（おそ）れているような感じだった。

……そんなはずはない。

村井は心の中でひとりごちて窓の外に目をやった。

……おとうさんはね、チクワなのよ。中が空洞なの。

ずっと以前に聞いた姉の声がよみがえった。

……　A奴（やつ）だけは許せん。

その声は、たぶん村井が生涯のうちで一度だけきいた、父の他人に対する悪意だった。

村井の父は五年前、五十歳で死んだ。村井が大学を卒業する前の年である。

父の五十年の人生は「だまされること」「裏切られること」であったと今でも村井は思う。

B 父自身、溺れるのを知りながら他人を救うために水の中に飛び込んでしまうようなところがあった。

②父の決定的弱点は、いつでも人恋しいところであった。

詳しいことは未(いま)だ知らされずにいる村井だが、父は両親とも健在でいながら成人するまで肉親の手で育てられなかった。父の実母に村井は会ったことがないが、父の実父は父の生まれる前に再婚しており、父の死んだ今でも世田谷の方で家族に囲まれて暮らしている。

村井にとっての祖父が築いた家庭には、つまり村井も、もちろん父も血のつながりがあるわけだが、村井はその家族とは会ったことがない。祖父にしても幼いときに二、三度ばかり会ったことがあるだけである。

……俺には故郷がない。

ずっと昔、酔った父が言ったのを聞いたことがあるだけである。父は帰る場所のない人生を送ってきたのだろうと村井は思う。そうしてそれこそが、父をいつまでも人恋しくさせていた原因である。

父は長女の京子が生まれた翌年、事業を興した。はじめは社員五、六人の、小さな貿易会社だったという。しかし、村井がもの心ついたころには、父の会社は渋谷に自社ビルを持つ、業界の新鋭企業だった。

飛ぶ鳥を落とす勢いで業績を伸ばしていたその会社が、突然、それはほんとうに突然という言葉がぴったりなほど唐突に倒産したのは、村井が十八歳のときだった。

父は詐欺に遭ったのである。被害は億単位にのぼり、あれよあれよという間に会社は潰れ、あとには莫大(ばくだい)な額の負債が残された。

※債務者として矢面に立たされたのは、父の他二、三人の、昔からの社員だけであった。その他大勢の社員は態度を翻(ひるがえ)して※債権者の側に回った。

しかし父は、それらの者を悪く言ったことは一度もない。息子である村井が見ていてb歯がゆくなるほど、父はただ重い顔をして黙っているのであった。

そんな父の代弁をするがごとく、母はあらゆる者に対して罵詈雑言(ばりぞうごん)をまき散らした。

……浅野が寝返って、今は債権者の先頭に立っているというのよ。誰に家建ててもらったと思っているの、あいつは。

……青田と松本は通じてンのよ。恩知らずにもほどがある。

浅野という男は、以前の会社を上司とケンカした挙げ句クビになって、行き場を失っていたのを父に拾われた男であった。

青田というのは父の秘書をしていたのだが、倒産のひと月ほど前、詐欺の一件を知るや否(いや)や、しっかり退職金を持ってさっさと自ら会社を去った。倒産した後では退職金が出ないことを読んでいたわけである。

誰も村井の父を助けてくれる者はいなかった。皆がそれぞれ、自分と、自分の家族を守るために必死だったのである。しかし、父だけは自分を守るより先に他人のことを気遣っていた。

③父が成城にあった家を守ろうとしたのも、決して自分や家族のためではなかった。

渋谷のビルや都内の支所、横浜や神戸にあった支社などはすべて差し押さえられていた。その中で父は策を練り、成城の自宅だけはなんとか守ろうとした。地価高騰の前ではあったが、成城の一等地の土地と建物は時期を計らって競売にかければかなりの値段になる。父はその金で、いくらかでも負債を返そうとしていたのだ。

村井と姉の京子、それに母の三人は、倒産してすぐ、成城の家を出て家を借りた。④父は友人にその家を「売っていた」ことにし、友人の一家を成城の家に住まわせた。

ところが父はそこでもう一度、だまされることになる。信頼していたその友人が、実際の書類上の※廉価で成城の家を自分のも

のにしてしまったのである。

⑤父はチクワだと京子が言ったのは、そのころである。

……お父さんは中が空洞になっているから、何でも呑(の)みくだせるのよ。呑みくだしてしまうから、誰にも怒らないの。

……でもね、あんまり大きいものだと、空洞の内壁だって傷つくわよ。

淡々としてしゃべっていた京子が、そこのところで急に涙ぐんだ。父の「内壁」を傷つけたのは、知生という名のその友人である。

知生は二年ほど成城の家に住んだあと、地価ブームに火がついたところにその家を売却したらしい。父が死んだのは知生によって成城の家が売却されたすぐあとのことである。

あとにもさきにも、父が他人に憎悪を見せたのは知生に対してだけだった。父が知生を許せなかったのは、たぶん裏切られた信頼の大きさによるものだろう。

人恋しさゆえにだまされると知りながら、罠(わな)に入ってしまう父だったが、知生に対しては最後の信頼を持って接していたに違いない。成城の家は父が守ることのできる最後の要塞だった。

父の死の翌年、京子は十五も年の離れた実業家と結婚した。姉の結婚の条件は母と同居ということだった。

父が死んでから急にしなびてしまったような母は、おとなしくその男の家に入った。たまに村井と会うこともあるが、もう以前のように威勢よく父を裏切った人々の悪口を叩(たた)くことはない。元気がなくなったのは事実だが、それでも金があるということはそれだけで幸福なことだと村井は思う。

だから村井は、他人が何を言おうと姉の生き方はそれなりに立派なものであると思う。ただ自分と姉の違っている点は、姉は自分がだます側にまわったというところである。姉はまるで、父がだまされた分を取り戻そうとしているかのように見える。京子が十五歳年上の夫を愛していないということは明白すぎる事実だ。

しかし、村井は、他人をだます気になれない。そうしてまた、他人にだまされるのも嫌である。ただただ、ごく普通の人生を送りたい。平凡な女と平凡な家庭をつくり、とびきり上等ではないがそう捨てたものではない一生を過ごす。それ以上のものは求めまいと村井は思う。

激しい波ははじめのうちは面白いかもしれないが、長く続けばきっと呑み込まれてしまうものだ。村井は、風をはらんだ帆船の帆を思う。⑥ゆるやかにたわむ帆の上で泳ぐような、冒険もないが危険もない生活を村井は好ましく思う。そこには夢はないが現実の生活がある。

だますのは自分だけでいい。疲れた心を感じたら、時折自分をごまかして毒にならない遊びをしよう。たまには夫婦で口争いをしたり、子どもが生まれたら教育問題に悩もう。恐らく村井は、妻と激しい言い争いをしたり子どもを叱りつけたりしている時でも、胸の内では冷め切ってもうひとりの自分を見つめていることだろう。近い将来のそんな自分が、村井には手にとるようにわかる。それで十分だと思う。

注　※　債務者 … 借金を返す義務のある人。

※　債権者 … 借金を返してもらう権利のある人。

※　廉価 … 安い値段。

問一 ═══線部a「居たたまれない」、b「歯がゆくなる」の言葉の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a「居たたまれない」

ア つらくて耐えられない
イ いらいらしてしまう
ウ 座っているのが苦しい
エ 生理的に受けつけない
オ とてもつまらない

b「歯がゆくなる」

ア うんざりする
イ 気分が落ち込む
ウ じれったくなる
エ ばかばかしくなる
オ 腹立たしくなる

問二 ═══線部①「インクを買ってきてもらえますか」とありますが、こう言った時の村井の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 恵子に仕事を教える役を頼まれたことについて迷惑だと思う気持ち。
イ 先輩として命令することで仕事ができることを示そうという気持ち。
ウ やたらと緊張しているらしい恵子の心をほぐそうとする気持ち。
エ 恵子の動くペースがゆっくりであるため腹立たしく思う気持ち。
オ 恵子がはじめて明るさを見せたことに対して生意気だと思う気持ち。

問三　――線部②「父の決定的弱点」とありますが、なぜ「父」にはこのような「決定的弱点」ができたのですか。「～から。」に続く形で十五字で抜き出しなさい。

問四　――線部③「父が成城にあった家を守ろうとしたのも、決して自分や家族のためではなかった」とありますが、なぜ「父」は「家を守ろうとした」のですか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。

問五　――線部④「父は友人にその家を『売っていた』ことにし」とありますが、ここで「売っていた」にカギカッコがついているのにはどういう意図があると思われますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　成城の家を売りたくはなかったが売らざるを得なかったことを強調する意図。
イ　成城の家を売ったということを読者に印象づけるという意図。
ウ　成城の家をほんとうは売っていなかったということをほのめかす意図。
エ　成城の家は一等地だったから高く売れたということを示す意図。
オ　成城の家が売れて得意になっていた父の心情をあらわす意図。

問六　━━線部⑤「父はチクワだと京子が言った」とありますが、「京子」が「父」のことを「チクワ」と言ったのは「父」のどういうところを指して言ったものですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　自分はどれほど苦しい状況に追いやられても、人を助けることを第一に考えていたところ。
イ　人にだまされたショックにより、ぼんやりと毎日を過ごし、何事にも興味を示さないところ。
ウ　どれほど人からひどい仕打ちを受けても、すぐに立ち直り、いっこうに傷つかないところ。
エ　内心ではひどく傷ついていたため、隠そうと思っても動揺を隠すことができないところ。
オ　いくら人に裏切られても、耐えてやりすごし、相手を非難することがなかったところ。

問七　〰〰線部A「奴だけは許せん」とありますが、この時の「父」の気持ちについて、「村井」はどう思っていると考えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　父は、会社をクビになった時に助けてやった知生に手ひどい仕打ちを受けて、怒っていたのではないかと思っている。
イ　父は、最後の信頼を持って接した知生に裏切られたことに対して、ひどく腹立たしく感じていたのではないか思っている。
ウ　父は、秘書として信頼していた知生にちゃっかり退職金をせしめられたことに、憤(いきどお)っていたのではないかと思っている。
エ　父は、かわいがっていた京子があまりに恩知らずな行動をとったことに、いらだっていたのではないかと思っている。
オ　父は、社員たちのことを理解せずにののしる京子に対して、情けない気持ちになっていたのではないかと思っている。

問八　〰〰〰線部B「父自身、溺れるのを知りながら他人を救うために水の中に飛び込んでしまうようなところがあった」とありますが、これは「父」がどういう性格だったということを表していますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　貧しい幼少期を過ごしたため、孤独な人を見るとつい昔の自分と重ねてしまい、助けなければ気がすまない性格だったということ。

イ　複雑な生い立ちのため、自分が不利益をこうむると分かっていても、困っている人につい手を差し伸べてしまう性格だったということ。

ウ　起業してうまくいっていたため、たとえ裏切られると知っていても、誰彼かまわず金を渡し、愛情を求める性格だったということ。

エ　裏切られてばかりの人生で、家族以外誰も信用できなかったため、家族のためならどんな危険でも冒す性格だったということ。

オ　両親に見捨てられて成長したため、孤独と不安を心に刻み込んでしまい、親しい人なら誰でも信頼してしまう性格だったということ。

問九　――線部⑥「ゆるやかにたわむ帆の上で泳ぐような、冒険もないが危険もない生活を村井は好ましく思う」とありますが、「村井」はどのような人生を送ろうとしているのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　誰かをだましたり、だまされたりすることはないが、父のように様々な人生経験を積むことのできる華やかな人生。
イ　過ぎた幸せを求めず、自分の身の丈に合った生活をし、決して自分をだますことのない平凡な人生。
ウ　自分の欲望を追いかけて危険を招き寄せたとしても、その逆境に耐えることができるような立派な人生。
エ　社会的な成功をおさめようなどという大それた夢は持たないが、人がうらやむような裕福な人生。
オ　浮き沈みのある刺激的な生活を望まず、自分に正直に生きることにもこだわらない、それなりに幸せな人生。

問十　この文章を読んで、クラスで話し合いました。次の会話の中から、本文の内容と合致しているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　Aさん …　村井のお父さんはとてもお人好(よ)しだったから、人にだまされてばかりいたんだね。村井はそんなお父さんの人生を軽蔑しつつも、自分もそんな人生を送るんじゃないかって恐れているね。

イ　Bさん …　村井はそんな失敗ばっかりの人生を送ったお父さんを嫌っていたのかな？　少なくとも姉の京子は父親のことを馬鹿にしているね。

ウ　Cさん …　村井はお父さんの人生に寄り添って、そこから人生の教訓を得たんだと思う。その教訓は本文の最後の方で書かれているね。

エ　Dさん …　それにしても、村井の仕事場にかつての父親の知り合いの娘がアルバイトでやってくるなんてうれしいことだね。世間は狭いね。

オ　Eさん …　本文の中頃に父との思い出がたくさん描かれているね。こんなに父の事を覚えているのだから、やっぱり村井は父のようになりたいんじゃないのかな。

【三】　次の文章は井原西鶴の『本朝二十不孝』の一節である。作弥と八弥は、武士であった父を失い、次いで母も悲しみのあまり死んでしまった。次の文章はそれに続く場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

その夜は雨降りてもの寂しく、近所の人、「①作弥、八弥が母人の幽霊来たり」とかりそめに言ひ出だし、その後は「我も見し」「人もあひつる」とよしなき取りざたをして、夜に入れば往来とまりて、所の騒ぎとなれば、②作弥、八弥が身にしては、世の外聞口惜しく、兄弟寝覚めにもこれを忘れず。その折から、窓の開く音、ありありと母親の面影庭に見とめ、親子の仲ながらおそろしく、兄の作弥は手を合はせ、「③など成仏し給はず、幽霊になり給ふや。あさましき御事や」と、涙を袖に浸しける。弟の八弥、かひがひしく、枕にありし弓つがひ、放ちければ、形は消えて、ぱつと光あり。立ちよりて見るに、年経りし狸の鼻筋より射通し、いまだ息の荒きを、とどめさす。「これは、この所より東の宮山に住みて、今までいかほどか人を悩ましけるに、この度の手柄、八弥なり」と、これを讃めざる人はなし。

この事、国守の※沙汰に及び、詮議ありしは、下々に思ふとは別なり。「兄の作弥、再び見えし母をかなしむの所、これ武士のまことある心底感じ入られ、当分、※二十人扶持下し置かれ、末々※御取り立てあるべき」と仰せ渡されたり。「弟八弥、変化にもせよ、親の形と見て、これに手づから弓矢の敵対、不孝の心ざし深し」と、御取り立てもなく、この国を立ち退かせける。

注　※　沙汰…評議。審判。

※　二十人扶持…「扶持」とは、俸禄（ろく）として国から武士に与えられる米の単位。

※　御取り立て…登用して役職に就けること。

問一　〰〰線部「あひつる」を現代仮名遣いに直しなさい。

問二　――線部①「作弥、八弥が母人の幽霊来たり」について、次の〔　〕にそれぞれ一字の助詞を補い、口語訳を完成させなさい。

作弥と八弥〔　〕母親〔　〕幽霊〔　〕来た。

問三　――線部②「作弥、八弥が身にしては、世の外聞口惜しく」とありますが、ここでの兄弟の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　死んだはずの母親が人を襲ったという近所の人々のうわさを聞き、恥ずかしく思っている。
イ　母親が幽霊となって姿を現したという近所の人々のうわさを聞き、残念に思っている。
ウ　幽霊になった母親が人に捕まったという近所の人々のうわさを聞き、悔しく思っている。
エ　父の後を追い自殺した母親が幽霊になったということを知り、母を哀れに思っている。
オ　母親が近所の人々にみっともない姿をさらしていることを知り、腹立たしく思っている。

問四　――線部③「など成仏し給はず」の現代語訳として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　どのようにして成仏（じょうぶつ）なさって
イ　どうして成仏なさらないで
ウ　どうにかして成仏させたくて
エ　どうしても成仏してほしくないのに

問五　次のAさん、Bさんの会話は本文の内容について話し合ったものです。これを読んで後の問いに答えなさい。

Aさん …　兄弟に対する下々（しもじも）の人と国守の評価が違っているね。

Bさん …　そうだね。下々の人は a【兄・弟】のことを評価しているよ。［　I　］からだね。

Aさん …　でも、国守は b【兄・弟】が［　II　］ことを非難しているよ。反対に c【兄・弟】については［　III　］ことを評価している。

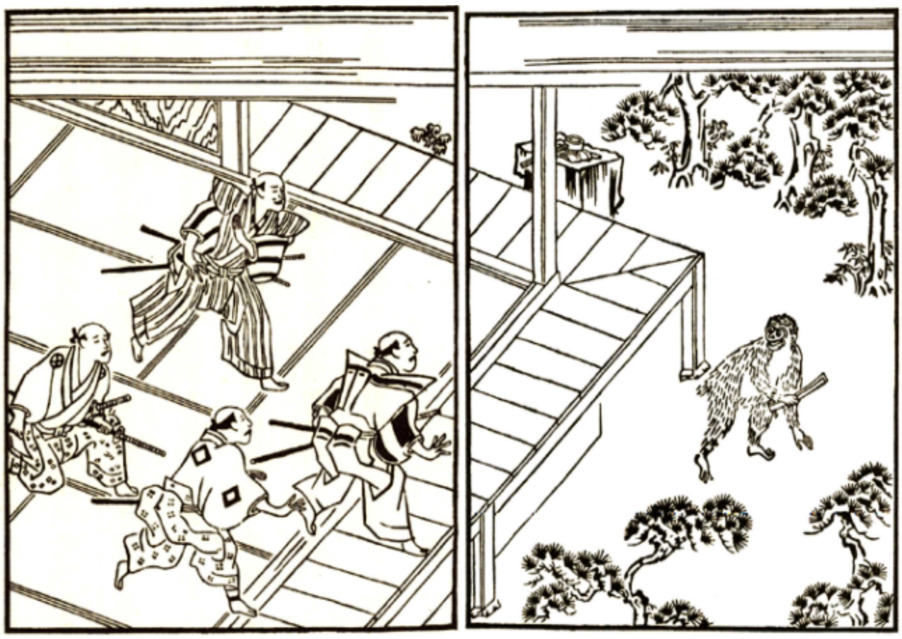
Bさん …　じゃあ、作品のタイトルに「不孝」という言葉があるけど、この話の場合は d【兄・弟】のことを指していることになるね。

(1)　会話中の【　】a ～ d について、それぞれ「兄・弟」のどちらが当てはまりますか。それぞれ答えなさい。

(2)　会話中の［　I　］～［　III　］に当てはまる言葉をそれぞれ考えて現代語で答えなさい。

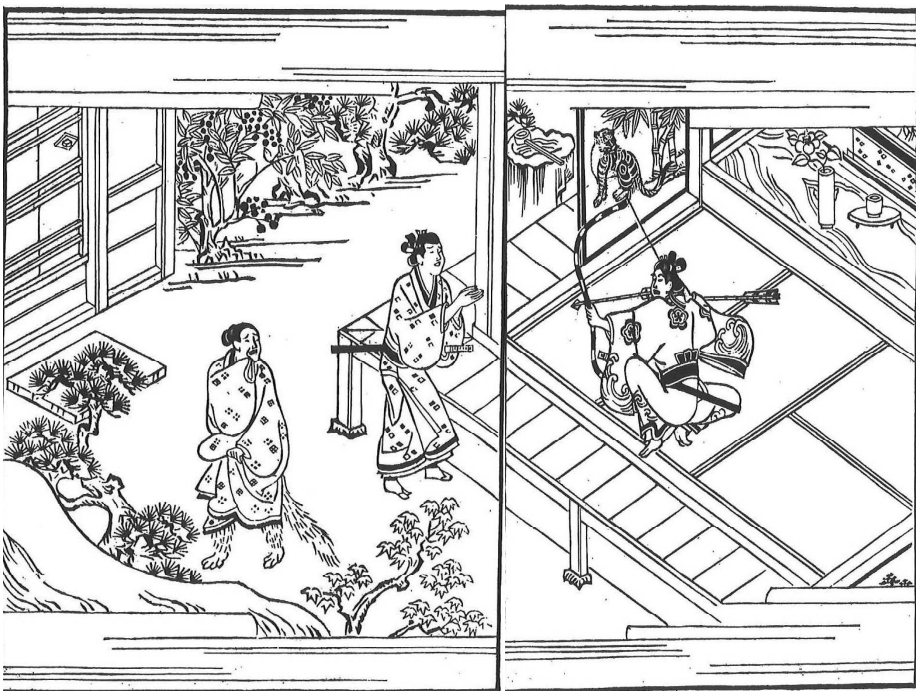
問六　この文章の挿し絵として正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア



イ

ウ



エ

二〇二一年度　和歌山信愛高等学校　入学試験

国語　解答用紙

受験番号

【一】

問一　a　b　c　d　e

問二

問三　A　B

問四　(1)

(2)

問五

問六　X

Y

問七

問八

問九

【二】

問一　a　b

問二

問三　から。

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

【三】

問一

問二　作弥と八弥（　　）母親（　　）幽霊（　　）来た。

問三

問四

問五　(1)　a　b　c　d

(2)　Ⅰ

Ⅱ

Ⅲ

問六

二〇二一年度　和歌山信愛高等学校　入学試験

国語　模範解答

受験番号

【一】

問一　a 彫り　b 排除　c 紛争　d 環境　e 対象

問二　オ

問三　A イ　B ア

問四　(1) 社会の仕組みが原因で生み出されている暴力

(2) イ

問五　エ

問六　X 戦争がなくとも「平和ならざる状態」はある

Y 暴力の意味が変わり、平和の意味が変わった

問七　積極的平和

問八　身近な所にある人間の安全を脅かす要因を取り除くことが安全保障だという考え方。

問九　ア

【二】

問一　a ア　b ウ

問二　ウ

問三　帰る場所のない人生を送ってきたから。

問四　成城の家を売って、いくらかでも負債を返そうとしていたから。

問五　ウ

問六　オ

問七　イ

問八　イ

問九　オ

問十　ウ

【三】

問一　あいつる

問二　作弥と八弥〔　の　〕母親〔　の　〕幽霊〔　が　〕来た。

問三　イ

問四　イ

問五　(1) a 弟　b 弟　c 兄　d 弟

(2) Ⅰ 人を悩ませていた狸を退治した

Ⅱ 親の姿をした者を弓矢で射た

Ⅲ 幽霊になった母を悲しんでいる

問六　エ